

# 地域おこし 協力隊通信

退任にあたり、これまでの取り組みを振り返りました。



移住支援担当  
奥村 純一

—— 3年間の取り組みを教え  
てください。

主に地域へ誘導するイベント活動を行いました。そのほとんどは通過地点のまち。皆野町を目的地としたものです。

車両の展示、趣味の自動車を使ったピクニックやキャンプ。そして皆野町に集合し、秩父地域を周遊して皆野にゴールするラリー競技。協力してくれる地元企業敷地内での移動カフェ営業や、プロの整備士を講師に招いての趣味自動車のメンテナンス講座などを開催しました。

皆野町にある施設を使い、そこに集うことを目的としたイベントの開催は、その都度、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネットという各媒体で必ず取り上げ

ていただき、知名度向上という目的は達成できたのではないかと思います。

3年前にはカイノ、ミナノチヨウと読んでいたかたも今ではほとんどいなくなつたのは、そうした効果ではないかと感じております。

また、ラリーイベントでは前日から宿泊されるかたも多く、地元宿泊施設での懇親会を行うほか、イベントの食事、コース途中でのゲームのために、お買い物競争、景品購入といったことも地域経済にも少しだけ貢献できたかと思えます。



クラシックカーイベントの様子

—— 今だから言える、大変だったことはなんですか？

皆野町での活動を応援してく

れる仲間たちの存在は、とても心強くありがたいものです。残念ながら、応援してくれる仲間の離脱も経験しました。そこに自分の理解が至らなかつたこと、能力不足を感じます。

—— 活動を終えて思うことはありますか？

過去にもこうした国の取り組みは、言葉を変えて行われており、私の活動内容にもあります。クラシックカーを使ったものが定着している地域もあります。

例えば約30年前の、村おこしから始まつた長野県小海町の「コッパディ小海」というイベントは、現在も毎年全国からファンが訪れるイベントとして定着しており、現在は小海町役場がその申し込み窓口です。また隣の小鹿野町では、オートバイの博物館があつたこともあり、現在でも関東のみならず全国のライダーたちの脳裏には聖地として記憶されており、博物館が無くなつてからも、地域飲食店が協力しあう組織「ウエルカムライダー」もあり、小鹿野は、秩父地域を訪れるライダーたちの目的地や経由地となつており継続することの重要性を感じます。

私も次の「コッパディ小海」

を目指し、皆野町でのイベントを継続していきます。



「ミナノミラノ」で開催したワークショップの参加者の皆さん

—— 今後の皆野町に対して一言お願いします。

私はイワナが好きで、天然魚を求めて源流部まで、落葉樹の森を数時間歩き釣りをしますが、この地域固有の特徴、「秩父イワナ」と呼ばれる赤味の強い個体は、現在は簡単に立ち入ることとはできない場所にしかいません。この「秩父イワナ」、乱獲により瀬戸際に立たされていますが、現在の進歩した養殖技術があれば、また元来の地域固有

種を守ることもできるのです。現在、この地域に放流されているニッコウイワナは、山梨の養魚場から仕入れられており、昔からの釣り人は「秩父のイワナじゃねーな」というのが現状です。

一つの例えとして、秩父イワナの養魚場を観光資源へと活用するなど、現代流のアレンジ可能な事案は、この地域にも山ほどあるかと思われれます。

時代の変化もありますし、固定観念に固執せず、柔軟性を持つて地域の魅力を再確認し、それを見逃さないでいてもらいたいですね。

私は地域おこし活動終了後も、変わらずに皆野町で個人活動を継続します。これからも、縁あって応援していただいたかたがたと共に皆野町の魅力を発信していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。



町内イベントへの参加